
手術室震災マニュアルの見直しと訓練実施による危機管理の向上/ 手術室ポケットマニュアルの作成に向けての取り組み

(山村 恵、與儀士文：OPE nursing 27: 92-99, 2012)

2018年5月18日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

～①手術室震災マニュアルの見直しと訓練実施による危機管理の向上～

日本は、環太平洋造山帯に属しており、地震発生の多い国である。近年、阪神淡路大震災や東北大震災など、甚大な被害をもたらす震災が日本各地で発生している。本研究は、過去に大きな地震がなかった地区ではあるが、近隣に活断層があり、震災対策の必要性があると思われた病院において、手術室震災マニュアルを見直し、訓練を実施することによって、震災に対する危機管理の向上が見られたことを報告したものである。

著者の病院でアンケート調査を行ったところ、術中に震災があった時にどのように対応すればよいかということについて、防災知識や対処方法をもつスタッフが少数であり、不安を感じているスタッフが多数いることが、明らかになった。そこで、はじめに震災マニュアルを、麻酔科医・医師・器械出し看護師・外回り看護師に役割分担し、各自の行うべき行動をフローチャート化した。また手術室の避難経路と防災設備を防災マップとして作成し、各手術室に配置した。

訓練では、場面ごとに参加者と意見交換を行うことで、マニュアルの問題点も明らかになり、対処法を共有化できるようになった。特に、解説付き訓練を行うことによって、震災マニュアルには表記されきれない各自の行動や対処方法について明瞭化された。また、担送訓練では、手術台から担架に移動するときは、高低差をなくすためにストレッチャーを使用するなどの工夫を提案した。また、非常口や通路の形状によって、ストレッチャーでの安全な患者の搬送に多少の困難を伴うことを、スタッフも感じられたので、訓練の重要性がより明らかになった。

以上より、防災に対する被害のイメージ予想や知識は、震災勉強会と訓練を通して獲得することができることが分かった。また、マニュアルの共有化は震災に対する危機管理の向上につながると思われる。今後は、震災だけでなく火災や停電などの災害状況を想定した避難訓練を、手術室のスタッフで定期的に行う必要がある。

～②手術室防災ポケットマニュアルの作成に向けての取り組み～

災害時における手術室防災マニュアルを作成した病院が、あらゆる状況下でも手に取り行動できるポケットマニュアルを作成した。

作成されたポケットマニュアルは、縦14cm、横9.5cmの用紙を両面使用し、災害時に使用する際に濡れてもいいようにラミネート加工が施されている。このポケットマニュアルの良いところは、①内容は災害発生直後に必要となる内容のみであること、②業務中邪魔

になることがないような、常時携帯できるサイズとディテールにしていること、③ファーストコールの番号のみを、平日、夜間、休日ごとに分けて記載したこと、④リーダー、器械出し看護師、外回り看護師の役割ごとに分け、行動内容を優先度の高い順に記載した。⑤手術室のレイアウトを載せ、どこに非常口や消火栓、消火器が存在するのかイラストにして記載した。⑥避難時、ひとつの非常口に集中しないように各手術室からの避難経路を非常口ごとに色分けされていることである。

これらのポケットマニュアルと既存の防災マニュアルをもとに、手術室看護師を対象に防災訓練を実施したところ、1割の看護師がこのポケットマニュアルを携帯していなかった。その背景を把握し、全員が携帯できるようなシステムやスタイルを再検討するとともに、訓練の対象者を看護師だけでなく、多職種にも広げることが目標としている。